

第9回新城市産業自治振興協議会

平成28年11月30日（水）午後7時～午後9時
新城市消防防災センター
1階 防災コミュニティー研修室

○白井商工政策副課長 皆さん、こんばんは。ちょっと時間が過ぎましたけれども、只今から第9回の新城市産業自治振興協議会を始めさせていただきます。

本日の出席者は、今のところ8名でございまして、過半数の出席に達しておりますので、会議が成立したことを報告させていただきます。ありがとうございます。

○白井商工政策副課長 はい、済みません。

協議会運営規則第3条の規定によりまして、会長に進行をお任せいたします。

鈴木先生、よろしくお願いいたします。

○鈴木誠協議会長 それでは、きょうは第9回になりましたけれども、協議会を進めてまいりたいと思います。

きょうは、何人かの方がまだ、遅れて来られるでしょうね。ということでありまして、きょうは大体8時半を目途にして、進めていくようにしたいと思います。

この間は、さまざまな御意見をいただきましたので、それを踏まえて、たたき台の部分を用意してまいりました。ですので、きょうのところは、時間を目いっぱい、大体8時半をめどに終了していけるように進行したいと思っています。

この間、新城の企業展をやりまして、大変ユニークな視点で、これからの地域産業はとらえ方というか、あるいは地域と企業のつながり方が見られましたし、子供たちが何より非常に意欲的に参加をし、後でまた説明があると思います。そういうことも今日は確認をしながら、これから報告事項、並びに協議事項を進めていきます、どうぞよろしくお願いいたします。

○白井商工政策副課長 ありがとうございます。

それでは次第の2、報告事項に入りたいと思います。

よろしくお願いいたします。

それではまず1番目の「しんしろ企業展に

ついて」の報告でございます。よろしくお願いいたします。

○加藤商工政策課長 それでは、「しんしろ企業展について」説明させていただきます。

皆さんのお手元に、このカラーのチラシのものと、もう一つ「YOKOHAMA千年の杜プロジェクト」と書いてある資料があるかと思っておりますけれども、一番下に2番と書いてあるものですね。皆様にこの協議会で協議をしていただいたり、昨年から条例を作る段階で、新城にいろんな企業があることをまず市民に知らせる必要があるんじゃないかという話もいただいております。その中から「しんしろ企業展」と、「しんしろ企業シンポジウム」、このシンポジウムは、鈴木先生にもコーディネーターとして来ていただきまして、シンポジウムを開催しております。新城市と新城市商工会が主催となりまして、三菱東京UFJ銀行の松本支店長にもお越しいただきまして、新城金融協会にも協力をいただき、開催をさせていただきました。

お話しさせていただいたように、条例が制定されたことと、この条例で地域と市民と企業が一体となってまちづくりをしていかなければいけないという部分、それと、そうしたことから魅力あるまちへということを目指して、まず「しんしろ企業展」と、「しんしろ企業シンポジウム」を開こうじゃないかということで開催いたしました。

「しんしろ企業展」ですけれども、11日（金）の日には500名の方が参加していただいております。学生が370名ほどで、一般の方が130名ほど参加していただいております。12日（土）ですが、一般の方が500名と、2日間で約1,000名の方に来場していただいております。

「しんしろ企業シンポジウム」ですが、こちらも基調講演を本日来ていただいております菊川さんに無理を言って、横浜ゴム株式会社の工場長さんに、横浜ゴムの社会貢献活動

に関してお話をいただき、またもう一つは、本多プラス株式会社の社長さんから、「地域女性人材の積極的雇用と育成」ということでお話をいただいております。

第2部といたしましてパネルディスカッションを、鈴木教授にコーディネーターとさせていただきまして、横浜ゴムの工場長さん・本多プラスの社長さん・新城市の穂積市長にパネリストとして出ていただきましてパネルディスカッションを行っております。

参加者は、約100名の方に参加をいただいて、大変満足をしていただいて帰っていかれました。

アンケートをとっております。「しんしろ企業展」は1,000名のうちから560名ほどアンケートを回収しております。「しんしろ企業シンポジウム」の参加者からは、100名のうち72名の方からアンケートの結果をいただいております。

そのいただいたアンケートの中から、少しだけ抜粋させていただきますと、まず「しんしろ企業展」から少しお話をさせていただきますが、企業展の参加者「満足したか・しないか」という話からいきますと、90%の方が満足していただいているのですが、「初めてやってよかった。」という意見をいただいておりますが、「新城市に、こんなにたくさんの企業があるとは初めて知りました」、全体で今回は23社の方しか御参加いただけてないですが、それでも企業があることを知らなかったと。「もっと市内の学生にもたくさん見てもらうべきだ」という意見をいただいている部分と、不満である方は、「単なる企業のアピールなのか、何がしたいのかわからず、漠然とした感がある」「小規模、一人親方等の個人会社の情報を発信する機会を次回は行ってほしい」という意見をいただいております。ですから、次回は形を変えて、また実施をしようと考えております。

中学生の意見からは、「働くとしても新城

には働くところがないと思っていただけども、わざわざ新城から出なくてもたくさん会社があるので、高校の進路を考えたい」と。あとは、「東京などに出ていってしまう人がたくさんいるけれども、新城にいろんな企業があるので、いろんな人に伝えたいです」「中学3年になったので、そろそろ将来のことも考えようとしていたが、企業展はものすごくいい影響を与えてくれました」という意見を中学生からいただいております。

出展された企業の方からは、「初めての試みで大変よかった」という意見をたくさんいただいているのですが、「ターゲットが分からない」「開催の意義・目的をもっとしっかりと周知してほしい」「これから就職しようとする高校生・大学生と話ができる企業展にしてほしい」。やはり企業さんからしますと雇用の確保をしたいという意見が多かったので、来年は東三河の高校に声をかけて、高校生の方たちにもたくさん来ていただくようにしたいと思っています。

「しんしろ企業シンポジウム」ですが、シンポジウムの参加者は、アンケートをとった72名のうち、約9割の方が40代・50代の方に御参加いただいております。90%の方がシンポジウムにも満足していただいております。シンポジウムが基調講演に関しましては、「大きな企業の横浜ゴムさんと、地元の発展企業の両方の話が聞けてよかった」

「企業が地域に貢献しているので、自分たちも会社のために協力することがいいな」「地元の小さな会社の話をもっとたくさん聞きたい」という意見もあります。「パネルディスカッションの時間が短かった、1時間ぐらいは必要じゃないか」という話をいただいております。

私からは、簡単に説明をさせていただきましたけども、前のスライドで今ざっと、最初に戻っていただけますか。

○事務局 これが最初ですね。

○加藤商工政策課長 いいです、送っていただきます、1つずつ。

まず「しんしろ企業シンポジウム」を開催いたしましたので、どうぞ。

中学生の方に、金曜日は時間の間に来てくださいますと言ったので、300人ぐらいが2時間ぐらいの間に来てしまったので、非常に混雑した状況が生まれております。次、お願いします。

夏目金網さん・後藤コンクリートさん・相原製作所さん、このような形で、オーエスジーさんですね。本多プラスさん・横浜ゴムさんもブースを構えていただいています。

「しんしろ企業シンポジウム」は、2階で開催いたしました。横浜ゴムの工場長のお話をいただいて、本多プラスの社長にお話をいただいております。

こちらは、パネルディスカッション。鈴木先生にコーディネーターなどになっていただいております。最後に、市長に挨拶をいただいて閉会した形になっております。

初めて実施した感じといたしましては、本当に盛況のうちに終わったかなという感じをしております。

ディスカッションをコーディネートしていただいた先生から、どんな感じだったか、ちょっとお話をいただければと思います。

○鈴木誠協議会長 僕は、先ほど説明があったようにコーディネーターを務めたのですが、今回言われたとおり1時間もなくて、40分ぐらいだったんですが、その前に菊川さんのところへ訪問したり、出展企業各社を訪れて、そこで事業内容であるとか、事業を通じて呼びかけたい内容であるとか、今回出展をされたことの中で、やはりアピールしたい、あるいは見せたい、そういう事柄についての内容を幾つもお話をいただきました。

今回の「しんしろ企業展」は、目標とか、あるいは到達内容とか、それを1つに絞っていいか悪いかということよりも、むしろ、こ

の条例に基づいて初めて行った企業展が、若者たちの職業観、あるいは教育観というのかな、新城ではどういう人に育ててほしいかということをもみんなで考えるきっかけになる場じゃなかったかなと思います。なぜかという、今、新城では地域産業総合振興条例に基づいてこういう会議を設けて、振興計画をつくる作業をしています。愛知県内で、新城が一番後発というか、自治体の中でも都市の中でも一番新しい条例ですけども、先行している安城市であるとか、知立市であるとか、小牧市であるとか。もちろん愛知県もそうですけども、中小企業振興基本条例という大企業の優位性は認めながら、一方で、もう一つ中小企業もたくさんある、そこをやはり厚くして行って、大企業とともに中小企業の活躍の場をもっともっと知ってもらおうという試みを今、条例をつくってやっているのです。その中の条例の条文に「これから中小企業は若者たちの職業観、あるいは人生観を育むためにも、若い世代と顔を合わせて、そしてともにまちをつくっていく、そしてともにまちをつくっていく重要な産業として、中小企業のことを若者たちに知らせなきゃいけない」という条文があるのですよね。そういった条文を今つくっている自治体、つくろうという自治体が非常に多くなってきました。ですから企業展も、自らがどのような理念に基づいて、何をつくって、どれだけの人を雇って、そしてどう社会貢献していくかという1つの会社のストーリーを紹介する一方で、もう一つはこの新城市なり、あるいは自治体に立地をして、そこで事業をする中で、いろんな人たちと出会ったり、それから地元の人たちを雇用したりする。どのような公共的な市民も一緒に企業として、ほかの企業と連携してつくりたいかということ、やはりアピールしていくことがすごく大事で、今回は、もしかしたらその突破口になったかなと僕は見えています。どの企業の方も自社の説明を

すると同時に、やはり若者たちとか、来る方たちと話をしながら、どんなものを作ったら使ってもらえるだろうか、どんな会社だったらまちがにぎわうだろうか、いろんな自社以外の、まちを活性化するための幅広い話題をぼつぼつ出しながら、自社の貢献する分野、機能を紹介していたりもししていました。そういった点で、僕は非常にいい一歩になったかなと前向きに考えていました。ですから、それが「しんしろ企業シンポジウム」でさらに引き出せたらよかったなとも思いましたが。今回は余り欲張り過ぎない、ひとまずは、取り組んだことの意義ということと、それから今後必要なことをちょっと、あったと思うのですね。とにかく、いいやり方について御提案をしたいと思います。

○加藤商工政策課長 ありがとうございます。

菊川さんもいかがですか、企業展・シンポジウム、会社として大変だったですね。

○菊川倫太郎委員 そうですね、出展した側からすると、確かにさっきおっしゃったみたいに、ターゲットが。そもそも、ターゲットを設定してどうこうという話かどうかというのも含めてですけども、分からなくて。やはりちょっと皆さん、どうしたらいいのかなという感じがあって。すごく打算的というか、変な言い方をするとさっきおっしゃったみたいに、やはり採用とか。例えば新城高校が近いので、新城高校の高校生が結構来てくれたらうれしいなとは思っていましたがけれども、なかなかそれも叶わずなところ、10人ぐらい来たかなという感じがしましたけれども。それはちょっと置いておきましても、我々にとって若干しくじったなと思うのが、何かもうちょっと打ち出せばよかったかなと。ちょうど今、あそこに映っていますけれども、何かこう中途半端な感じになってしまって、ここにも書いていますけれども、「しんしろ企業展」の下に、新城のものづくりを体感し

てくださいなんて書いてあるので、基本的にはメーカーさんを集めてなさっていると思うのですが、もうちょっと、例えばタイヤだとこんな作り方をしてるんだよとか、何かもうちょっと、これは私どもだけの反省かもしれないですけども、もうちょっとタイヤのメーカーが新城にあるよと、タイヤはこうやって作っているのだよというようなこととか、作る楽しさとか、苦しさとか大変さとか、何かそんなことも、例えば映像で見せるとか、パネルをつくるとか、そういうところが出来たらよかったなあと、ちょっと反省はしていますけど。企画としては非常によかったのではないかなと思いますので。初回だからしょうがないですけど、事前に出展する企業といろいろな話、市の方々といろいろな話をしながら出来たら、もうちょっとよかったかなと思いました。

○白井商工政策副課長 ありがとうございます。

以上で「しんしろ企業展」の説明は、終わらせていただきます。

次の報告事項も先生、次の報告へ行っていいですか。事項もどんどん行っていただいてよろしいですかね。

○鈴木誠協議会長 今、「しんしろ企業展」についてということでお話ししました。

続きまして、第8回の新城市産業自治振興協議会の協議結果、手短かに説明をお願いします。

○内藤副部長 資料でいきますと、下のところ、4番目「4」と書いてある資料が、協議結果についてとなっております。

1番、第8回協議会についてということで、まず「創業支援事業・地域産業支援相関図（案）について」ということで説明いたします。

第7回の協議会でいただいた意見を受けまして、2つの事業について説明させていただきました。1つは、新しく仕事を始める人へ

の今ある支援として「創業支援事業」による支援。「創業支援事業」ですが、具体的にはパン屋さんとか美容院とかを始めようとする事業、その支援を想定しております、その説明をさせていただきました。

「創業支援事業」のほかにもう一つ、地域の困りごとを稼ぎながらどう解決していくかとか、地域でどうお金を稼いで、地域に還元して持続させていくのかといった事業計画の段階での支援ということで、地域産業支援相関図（案）というものを示させていただきました、その中で「伴走支援事業」による支援を今後、市で実施します、という内容の説明をさせていただきました。「伴走支援事業」による支援ですね。「創業支援事業」と「伴走支援事業」の説明。

次に市民自治・地域自治・産業自治の3つの自治について、説明をさせていただきました。3つの自治で政策を考えて進めていこうと考えております。

前回の協議会では、市民自治とか産業自治の区分でありますけれども、市民や若者や各地域が、いろんな活動に取り組んでいると。その活動支援事業として「めざせ明日のまちづくり事業」、「若者チャレンジ補助金」、「地域活動交付金」の事例を紹介させていただきました。特に、この地域で出た課題を解決する、いわゆるコミュニティビジネスとか、ソーシャルビジネス。またはローカルビジネスとか、スモールビジネスというものを、それらが芽となって出てきたものを産業自治の部分で育てていく。そして最終的には地域で稼いで、そのお金で地域の中を回していこうということは今、新城市は考えていますというお話をさせていただきました。

次、2番目、協議ですけれども、つくでスマイル推進協議会の「つくで田舎レストランすがもり」への支援策について、意見をいろいろ出させていただきました。作手地区の皆さんが、つくでスマイルという事業体を立ち上

げまして、現在、菅守の廃校跡地を活用して、山間地レストランの事業を始めております。国の交付金を活用して、地区の高齢の方々が力を合わせて活動されていると。この事業が、交付金を活用したコミュニティをつくっていく活動として始まっておりますけれども、これをどう支えていくことがいいのか、どのような方向がいいのか、皆さんの御経験をベースとして、意見をたくさん出していただきました。

次に委員さんから出た意見ですけれども、主な意見として、「協議会の場として、「レストランすがもり」のこれからについて、委員さんが一生懸命考えてアイデアを出している、この場やこの機会が大変貴重な伴走支援になるのではないか」と。伴走支援の前にとということで、「伴走支援者に行く前に、ソーシャルビジネスや、ローカルビジネスを始める若者や、女性同士のコミュニティみたいなものをつくって、お互いの悩みや問題点の話ができる、そういった話し合う場も重要ではないか」という御意見。

それから、活用のアイデア。「厳しい自然（極寒）や過疎状態、そういったものを逆手にとって、体験ツアーやマニアをターゲットに営業を行うこともいいのではないか」という意見がございました。

他にも、「一生懸命やっている現場の皆さんの声を外に出ないことが問題なので、皆さんの声をしっかりとインタビューして聞いてあげて、本当の部分をきちんと出していく支援が必要なのではないかと。他に、「いろんなアイデアをみんなで出し合って、刺激をしていくことが大事なのかな」という意見。それから、「責任者を決めて、利益を出すような営業をしていくこと。あと若い人をたくさん入れて、そのイベントが継続してやっていけるように、若い人を積極的に活かしていく形をとった方がいい」という御意見もございました。それから、「地域の方たちがこの

事業をどう存続させていきたいのか、どういうビジョンを持っているのかを一度しっかりと固めたほうがいいのか」という御意見もいただきました。

最後に会長さんから「伴走支援者の具体的なサポート体制について、どういう視点で、どのような方法がいいのかが、これからのテーマになるのではないか」と意見をいただきました。

前回の協議結果の内容については、以上でございます。

○白井商工政策副課長 何か、御質問とかありますでしょうか。

それでは先に進めさせていただいて、3番ですけども、議事録。これは紹介で、3番・4番と一緒に手短にお願いします。

○内藤副部長 資料の5番をごらんください。

前回、第8回の協議会の記録をテープ起こしたのですが、内容についてちょっと確認したものをお届けいたしました。この内容につきまして、御自分の発言の部分が抜けておるとか、誤字脱字があるとか、そのような修正等がございましたら、12月9日（金）までにお電話、もしくはメールで御連絡いただければと思います。

議事録については、以上でございます。

続きまして、スケジュール。資料でいきますと、6番について説明をさせていただきます。この内容ですけども、11月・12月・1月・2月・3月のカレンダーになっております。また、11月の一番下30日、第9回の協議会、きょうの協議会です。「基本計画素案の報告と意見の徴取」とありますけれど、これはまた後で説明をさせていただきます。

12月のところをごらんください。12月9日のところに「基本計画素案の報告（メール）」とありますが、これについて、ちょっと先に説明させていただきます。協議内容のところ、産業自治基本計画案について、後

で説明させていただきますが、この内容については、商業・工業・農業・林業・観光、それから新たな地域課題の部分、全部で6つの部分がございます。

今回の基本計画の案ですが、最後の「地域の課題を解決する産業の振興施策」の部分だけ、こちらの基本計画案ということで載せさせていただいて、その説明をさせていただきます。

この12月9日ですけれども、このときまでには、6番の地域の課題を解決する産業の振興施策以外の商業・工業・農業・林業、それから観光の5つの産業ですか、その内容を入れたものを9日に送らせていただきます。その内容につきまして、委員さんに読んでいただきまして、基本計画素案の意見の聴取ということで、22日ぐらいに御意見をメール等でいただきたいという内容です。

次にいきます。1月6日、基本計画素案の報告ということで、また前回12月22日に皆様方の御意見をいただいた内容を反映させて、新たにその素案の報告ということで、委員の皆様方にメールを送らせていただきます。

1月20日、またその意見について、皆様方の気づかれた点、御意見をメールでいただきたいと思います。

その下ですが、1月25日ですが、第10回の協議会を予定させていただきます。これが、その右を見ていただきますと、2月6日に答申とあります。答申前の最後の協議会ということで、その準備も兼ねてやりたいと思っております。

ここでも基本計画素案の委員の皆様方の意見を反映させたものの報告と、御意見をいただく機会にさせていただきたいと思います。

次の2月のところですけども、2月6日に答申を予定させていただきます。

それから、1月26日から2月9日までぐらいいかけまして、新城市議会の議員さんにもこの基本計画の案を説明することを予定し

ております。

全員協議会という場を設けまして、議員さんに内容の説明と御意見を伺いまして、必要な調整をさせていただいて、またその結果について、委員の皆様にご報告をさせていただきます。

次にいきます。2月16日、パブリックコメント開始ということで、3月21日、パブリックコメント公表ということで、1カ月は要しますので、このような予定とさせていただきます。

最後、3月24日に基本計画案の決裁を受けまして、28日に基本計画の施行を予定させていただきます。

説明は以上でございます。

○鈴木誠協議会長 今後の流れですけれども、これはあくまでも案ではありますけれども、残すところ会議も今日を除いてあと一回となってまいります。ですから、これからはこの間の議論を踏まえて計画の素案をばっちりつくり上げて、そして、見直すところがあるにしても条例に基づいて、産業自治振興計画としての体裁をまずはつくり上げて、来年度から実施していこうという、そういう流れを紹介してもらいました。これについて、何か御意見はございますでしょうか。出口が見えてきたと思いますので、あとどう出るかという、出方の問題をなるべく早くお示ししたいと思います。よろしいでしょうか。

ありがとうございます。それでは、本日の報告事項は以上でありまして、協議内容に進みたいと思います。

事務局から皆さんに、協議すべき内容等について説明、提案をお願いいたします。

○加藤商工政策課長 それでは、資料といたしましては、一番下に7と書いてあるものが今回の基本計画の素案ですけれども、はねていただきまして、中の2ページから、「産業自治基本計画の策定に当たって」という部分になるわけですけれども、計画の目的から基

本計画の位置づけ、基本計画の期間、あと策定の方法が3ページ目、第4節。続いて一枚はねていただきまして4ページ目、こちらは、本市の産業経済の現状と課題ということで、市を取り巻く社会情勢、地域の現状、人口問題とあります。5ページ目、中段あたりに第2節、本市産業分野別の現状と課題、商業の現状と課題、続いて工業の現状と課題、続きまして農業の、6ページ目になりますと農業の現状と課題、その後、林業の現状と課題と観光の現状と課題となっております。一枚はねていただきますと、8ページ目です。8ページ目、第3章から産業振興の方向性、目指す市の姿、第2節、産業振興の方向性、商業の振興、工業の振興、農業の振興、林業の振興、続いて10ページ目になりますが、5番に観光の振興、最後に6番目として地域の課題を解決する産業の振興とあります。

本日は、12ページ目にあります振興計画に基づいて、方向に基づく施策の部分、こちらを協議いただきたいと思っております。

本来ですと、ここのところを12ページ目で基本方針、まちづくり、ひとづくり、しごとづくりの後に、商業と工業と農業と林業と観光は、こういうことを施策として行っていくという部分が入るわけですけれども、こちらは、来週末に皆さんのところへ送らせていただいて、目を通していただいて質問等を受けたいと思っておりますので、今日は皆さんに今までの協議会で協議をいただきました13ページ目にあります、地域の課題を解決する産業の部分に関して協議をお願いしたいと思います。

内容につきましては、西田から説明をさせていただきますので、よろしく申し上げます。

○西田主任 資料7の12ページの第3章、方向性に基づく振興施策の中から御説明させていただきます。

産業自治基本計画では、商業、工業、農業、林業、観光業、地域課題を解決する産業の6

つの個別計画から本市の地域産業を目指す姿を実現するため、まちづくり、ひとづくり、しごとづくりの3つの基本方針を定め、その基本方針に沿った具体策を示します。

これまでの協議会の中で、暮らしやすい新都市をつくる産業として稼いでいく力をつくるという協議から、地域資源を活かした地域課題を解決する産業の創出と、その産業の担い手づくりについての取り組みが必要という意見をいただきました。

そこで、蚕玉の森プロジェクトやレストランすがもりの2事例の事業内容の問題点を協議していただき、事業実践者への先輩事業者の伴走支援や実践者のコミュニティづくり、行政、金融機関を初めとしたさまざまな人を巻き込む仕組み、実践者をみんなで応援する風土の醸成が必要という意見もいただきました。

今回は、これまでの協議や産業自治基本計画の上位計画に当たる新都市総合計画や、まち・ひと・しごと創生総合戦略の要点でもある、まちづくり、ひとづくり、しごとづくりの3つを基本方針とさせていただきました。

そして、協議会でいただいた御意見を基に、地域課題を解決する産業に対する振興施策の具体策として、13ページに記載させていただいた、地域を担う人材育成事業と地域の賑わい創出支援事業を提案させていただきますので、その内容について御意見をいただけたらと思います。

それでは、基本方針と具体施策の内容について御説明させていただきます。12ページのまちづくりから説明させていただきます。

基本方針1の『まちづくり』、まちづくりとは、地域のさまざまな課題を解決することで、さらに住みやすいまちとする具体的な活動、全般を進めさせていただきます。

活動結果は、地域社会の問題について、市民や企業を初めとする地域をつくる人々が自らその問題のありかを見つけ、自ら考えて行

動し、その他の個人や団体と新たな関係を築きながら、地域課題の解決や地域としての価値を創造していく必要があります。

そのため、市民自治、地域自治、産業自治が連携し、地域をより良くしようという思いの醸成と一人一人が出来る小さな一歩を踏み出し、思いを共有する仲間とまちづくりを楽しみながら活動を広げていくよう支援します。

方針2の『ひとづくり』です。1で示させていただいた地域で踏み出す第一歩は、お互いのことを知り合いつながらることではないでしょうか。それには、他人への無関心をお互いへの関心に変えるひとづくりが必要です。そこで、対話や自分たちで行動する過程を通して、お互いを知り、違う考え、経験、立場の人から学びを得ることがおもしろいと思え、同時にスキルアップや情報、経験共有の機会となるような学び合う場を設け、多様な人の参加を促します。

最後に3、『しごとづくり』です。しごとづくりとは、地域課題を解決し、暮らしやすく住み続けたいと感じるまちをつくる、地域参加や活動を生み出し持続させることです。地域自治、市民自治から生まれる小さくても大きな役割を持つ活動や、小さな規模であっても個人や地域で頑張っているお店やイベントを地域で昔から営まれている産業が地域で生き続け、文化と密接に結びついた地域力となるよう支援することで、地域産業により地域の魅力をつくり、地域内外の人々のさらなる活動のきっかけとします。

ということで、3つの方針を定めさせていただきます。

次にこの方針に基づいた振興施策の概要を、まちづくり推進課と地域自治振興課の事業の中から抜粋して、こちらに上げさせていただきます。

地域課題を解決する産業として、3つの支援、地域課題を解決する活動への支援、市内で就業や企業できる環境の整備、そして、地

域の賑わいの創出支援ということで、3つに分けさせていただいて、それぞれの事業内容を記載させていただきました。

この中から、地域課題を解決する活動への支援の中で2点、地域を担う人材育成事業ということで、地域で活躍する人材の育成、輩出の仕組みをつくり、事業実践者のネットワークによる地域内外の協力体制を築くというものと、市内事業所の社会的な課題解決を目指すビジネス事例を紹介、体感してもらうフォーラムを開催し、地域づくり活動との関りについて考えていただくきっかけをつくるという事業を一点、そして、地域の賑わい創出支援ということで、協働による地域活性化のPR強化のため、団体及び企業が実施する地域活性化や、対象者のPRを目的とするイベントの開催や集客を支援する、地域の賑わい創出支援事業を提案させていただきます。

資料は、まず地域を担う人材育成事業が資料8になります。資料8をご覧ください。こちらの事業目的、実施内容、対象者はかがみのおりです。一枚はねていただいて、図で説明させていただきます。

この事業の目的は、地域での起業希望者や地域で何か活動をしたい、協力したい人材の発掘と育成を目的としております。

この人材ですが、地域で起業してくれるとか、活躍・協力してくれる地域での人材の発掘や育成以外に、市外でも新城市について関心がある、動いてくれる人材、外部人材の誘致、連携も視野に入れております。

実施内容としましては、新城市の地域資源を活用した起業プランや地域活性化プランの実現を目指す人材を募集し、そのプランを実現するため、起業実践を伴走支援としてサポートさせていただきます。

そのため、先輩起業家などから起業事例の紹介やビジョンのつくり方を学ぶセミナーとゼロから事業をつくっていくグループワーク、活動地域へのフィールドワークを大学や地域

と連携して実施していきます。

参加者全員で地域課題の発見や共有をし、解決方法や地域資源の活用方法などの議論を通じて、地域内外に広くネットワークをつくり、参加者が集まる機会を定期的に設けることで、事業実践者が孤立しない環境や協力体制を築きます。

また、自分たちが考えた活動プランを成果として発表し、実践時には市民自治、地域自治で現在行っている支援を活用することも可能です。

将来的には実践者が次の地域で活躍する若手人材の育成を担い、輩出するような人づくりの循環が生まれるような環境を整えたいと思っております。

また、市内の事業所の方々の持つ専門的な知識や経営ノウハウをこういった地域づくりに活かすため、右手に記載させていただいたのですが、市内事業所の方に社会的な課題解決のビジネス例を紹介・体験してもらうフォーラムを開催して、そういった活動に関わっていただくきっかけをつくりたいと思っております。

ただし現在は新城市、起業希望者が少ないと思われまので、来年度は次ページにあります、まちづくりファーストステップセミナーのような事業として、若者政策や「めざせ明日のまちづくり事業」補助金の活用を考えている団体を対象に、地域において一步踏み出す団体を後押しすることで、市内に小さな取り組みが数多く生まれ、地域を巻き込んで一緒に試行錯誤しながら、地域に活力を上げていくような場と機会を提供することで、その中から小さなビジネスの芽を産業自治によって、コミュニティビジネスだとか、ソーシャルビジネスに育てていけたらと考えております。

地域を担う人材育成事業の説明については、以上です。

次に、地域のにぎわい創出事業の説明をさ

せていただきます。資料は4ページになります。

こちらは、新城市内で開催される地域活性化や地域のPRを目的とした事業に対する支援施策です。

新城市には現在、共催や後援の制度はありますが、この制度を活用させていただきます。現在は、共催、後援による市の支援内容が担当課や担当者の判断で決められていますが、具体的な支援内容を定め、また事業として広く周知することで、広報媒体や行政のリソースを地域づくり活動に活用できるよう整備する事業です。

この事業2点と農業、商業、工業、林業、観光業、そして新しい業の横串を刺す3つの基本方針の内容について、御意見をいただけたらと思っております。以上です。

○鈴木誠協議会長 西田さんから説明していただいた資料の今日の新城市の産業自治基本計画素案の中の12ページ、ここにこれから振興計画を具体的に推進していくに当たって、その基本的な方針として、このまち、ひと、しごと、ちょうどこれが、まちが地域自治、そしてひと、これが市民自治、そしてしごと、これが産業自治。こういうつながりもあることから、市の創生総合戦略を具体的に進めることも考えて、この基本的な方針、まち、ひと、しごとを、これからの振興計画の中の全ての分野に当てはめていこうじゃないかということのようですね。

それを具体的に、特に地域課題を解決する産業、これを興したり、既存の事業を支援するということで、このまち、ひと、しごとというものをつくっていくという観点で今、説明があった地域を担う人材育成、ひとづくりということになるでしょう。それから地域の賑わいを創出する事業、これは、地域自治になるのでしょうか。こういったところを今、検討して具体的にはもう一方の資料の中に書かれているようなことを描いてみたところで

すというところで、まだ具体的というか、実際の実施計画のようなものにはなっていないわけです。基本的な考え方ということで、今日は説明をお願いしました。

こういう基本計画を貫く3つの柱立てということ、それからそれを、この商業からぐると地域の6つの分野に、やはりつながって、6つの分野を3つの柱でしっかりとこれからやっていくのだということ、それから最後の地域課題を解決する産業については、今こういうことを考えたいというような具体的に考え方を示されたと。これについて、まず皆さんのどんな点でもいいですから、意見とか感想とか提案をいただけたらと、そういうところですか。まずは、そこのところをお願いします。いかがでしょうか。

どうぞ、佐藤さん。

○佐藤真琴委員 このまちづくりファーストステップセミナーですけれども、初年度は何人ぐらいの参加を想定しているのですか。

○西田主任 若者政策は、20人ほどを想定しています。若者議会を4月に募集をかけるので、4月の末には議員が決まりますので、5月からまちづくり推進課と連携して、若者議会のメンバーがこういったセミナーを通して、まずは地域のことを知るということから始めていければなと思っております。

○河合恵元委員 今の若者議会の年齢層は幾つぐらいですか。

○西田主任 高校生から29歳ぐらいまでです。

○河合恵元委員 僕は高校生とかが多いと聞いているけど、中学生もいるの。

○西田主任 中学生はいないです。

○鈴木誠協議会長 河合さんは、やっぱり今の若者議会のメンバーだけじゃなくて、新城市、中学生議会とかそういう人も対象にしているのじゃないですか。そういう広がりを持った方がいいということですか。

○河合恵元委員 余り長いスパンで考えない

ものですから、働いている人でもいいと思うのですよね。高校生だとどうしても外に出ていたり、大学に行かれたり、ターゲット的には何か、外に出て行って勉強するのはいいですけど、即効的などころがないなど。

○佐藤真琴委員 高校生だと勉強しに来て終わっちゃうというイメージです、動き出さない。

○河合恵元委員 楽でいいのだけどね、集めなくていいから。

○西田主任 対象としては、その方たちだけでなく、年間3組から5組ぐらいは、「めざせ明日のまちづくり事業」補助金を使って事業をする方々がいらっしゃいますので、その方々も対象になってきます。

○佐藤真琴委員 例えば河合さんの会社で働いている方が行きたいと言ったら、それはオーケーですか。

○河合恵元委員 別に、なだめる必要はない。

○佐藤真琴委員 なるほど。そうやって出せるといいですよ、人材、人事教育の一環みたいな感じで、もっと地域のこととかを知っていただける機会になると、チャレンジする人も増えるのではないかと思います。

○鈴木誠協議会長 この間、本多さん。本多プラスの社長さんがあそこで講演をされたときに、こういう場に出るのは初めてなんですよとおっしゃったのですね。非常に緊張しているなんて謙虚にお話をされたけれども、実際にビジネスの場では、いろんな修羅場をたくさんくぐられたとか、あるいは、研修セミナーなんかを話されたり、逆に出たりということはたくさんあるでしょうけれども。河合さんがおっしゃったことで新鮮なのは、こういう自分の会社がある地域にお住まいの皆さんとまちの将来をめぐって話し合ったり、意見交換をしたり、あるいは、まちの将来を憂いているような、そういう若者たちから仕事の内容をとらえたりというような、交流の機会が全くないとおっしゃったんですね。だか

ら、すごく新鮮だとおっしゃったんですね。

そうするとね、もしかしたら若手経営者とか若手従業員とか、そういう人たちもこの中では対象になってくるんじゃないかなと思う。これは別に新城だけじゃなくて、豊橋とかそれから刈谷とか岡崎でも、やはり中小企業の経営者の方たち、特にここに見えるような河合さんとか非常にがっちり組んでいる方は別として、そのもうあと二回りぐらい若い人たち、会社の常務とかそれから営業部長とか、こういう方たちがむしろその自分のビジネスとして関る人たちのつながりとか、異業種交流を経験しておくために。まちをこれからどうしていくということをめぐって、実は知る機会がもっとあればおもしろいとおっしゃるので、だからこういうまちづくりファーストステップの対象は、先ほどの菊川さんもおっしゃったけど、本当に対象を絞り込んでやるとおもしろい結果が出てくる。そういった点で僕は中小企業の経営者とか、それから若手経営者とか、先ほど佐藤さんがおっしゃったような研修も含めると、例えば、三菱東京UFJの松本さんのところのこいつは一回、やはり仕事を兼ねて地域の役員の方と探索させるべきだとか、そういう人員を出してもらうこともありかなと思うんです。将来を期待される若手の中堅、若手の人とか中堅の職員とかですね。

○松本吉生委員 セミナーで言うと、やはりいろいろ、フィールドワークとかいろいろ勉強、セミナー等で勉強して、さらにこんな事業、そこから求められるので、こんな事業をやってみたいという計画を作って、実際には事業まで結びつけると。一気に通貫でやっていきたい、そのファーストステップということですよ。

○西田主任 はい。

○松本吉生委員 例えば、若者議会とかだと、いろいろ調べたりなんなり、突撃レポートをつくるのはいいですけど、その人たちは事業

までこう持っていくのという若干違うかなと。一方で事業をしたい人たちはたくさんいます。でもその人たちは既にいろいろ考えていて、本当の根本まで、本来はそういう外部環境というか、社会環境とかまでさかのぼっていろいろ考えて事業計画を作っていけばいいけれど、そこまでは時間がないみたいなイメージなので。何となく一気通貫でこんな議論をするところは、学生の起業家みたいな子たちがいるでしょう。そういう子たちが一番の対象なのかなと。

もしかしたら、高校生もありかなと僕は思っているんですけど、高校生がみんな考えて、部活動じゃないですけども、もう本当に新城高校に地域政策部ですか、地元のことを考えたいという子たちで、1年ぐらいかけてこんな授業をやったらどうだという答えを出させるみたいな、何か学生でさらに仕事まで結びつけられる層じゃないと、何か一気通貫できるのかな。起業、何となく分断してないのかなと。若者議会もいいですけど、後ろまでつながっているかなと、ちょっと思いがある。

○鈴木誠協議会長 これ、二つあるんですよ。前半の部分とポイントが。

○河合恵元委員 松本さんがおっしゃったのはすごくおもしろいなと思ったので、部活動的に、部活動をやるんだということで勉強していく、それで自分で、最後に何か形にするのも、明日まちとの関りみたいなことはどういう。

○西田主任 ええと。

○河合恵元委員 そこには結構専門的な知識でトレーニングするみたいなことは絶対必要だねという話があったんですよ。

それは、甘い問題じゃないから、やはりしっかり、かなり勉強しなければならないという流れの中で、どういうふうに明日まちと関わっていくか。

○西田主任 この事業に対して使える支援は

若者の支援に使えますし、まちづくり、明日まちの支援にも使えるんですけど、例えば今、若者に対する支援を使った事業は若者の思いでつくっている事業になっていて、それが果たしてずっと続くかどうかという、その事業1回で終わってしまう可能性もありますし、そういったところをもっと精査させてもらう事業にしたいですけど、そこで、若者だけの意見じゃなくて、明日まちだとかの人たちの意見も反映できるようにであれば、もしかしたら、若者の目線の事業が明日まちの事業が変わってくるかもしれないですし、だからそういった効果も狙えるんじゃないかと思ってるんですが、一緒にやることで。

○鈴木誠協議会長 ちょっといいですか。

○西田主任 はい。

○鈴木誠協議会長 僕ね、若者議会を変えろとか、若者議会の若者たちを対象にするとすると、彼らの主体性を何か阻んでいるような気がしなくもない。失うんじゃないかなと思ってね。彼らは彼らで、あれをやってみよう、これをやってみようといろんなおもしろい企画もやったりして、おもしろおかしいけれども、独自の視点で、地域の捉え方とか、可能性を探ってるところがあるので、僕はそれはそれでいい。

むしろ、彼らを対象というよりも、彼らと一緒に企画をするということであれば、呼びかけにもなるし、彼らの仲間とか、例えば大学の知り合いで、北海道とか九州とか、そういったところで悲惨な過疎の実態を知っていて、でも、どうしたらいいか分からない。まずは手始めに、新城で挑戦させてくれという人が生まれてきたりということは大いにあり得るわけです。僕らのところでもあるし。

そうすると、彼らを対象じゃなくて、彼らと共同して、この企画をすることになると非常に対象が広がっていくし、関る人たちを掘り起こしていくことにもなって、もしかしたら新城の魅力を共有してもらえらるパートナー

が見つかるのかなという気もしなくもない。

どうですか。皆さん。

○松本吉生委員 今、若者議会というと、市役所に対する何て言うんですか、提言みたいなもの出されてますよね。

○西田主任 はい。

○松本吉生委員 例えば図書館をきれいにしましょうとか、新城駅の前のまちなみ情報センターというんですたっけ、あそこをちょっと何とかしましょうみたいな話ですけど、例えば、新城市内で、市への提言ではなくて、新城みたいに、こんな事業だったら、まちづくりにかなう事業にいろいろ調べた結果、こういったアイデアを我々は出しましたみたいなものを最後地元の事業者の方々が、ここで、実際にそれじゃあうちでやってみようかみたいなのに、つなげていけたらいいのかなという気がしますね。いや分からない、それこそ前にお話が出た、サブゲーみたいな話が出てきて、山に行かせて新城の場所でやりたいというカワイ製作所様からのサイドビジネス。

何か僕が思うのは、一気に通貫でやることってなかなか難しく、例えば10月ぐらいのところ、何か分断されてるんじゃないかなという。分断でなくて、一気に通貫でなかなか難しい。リレー方式みたいなイメージでやったら何か、もしかしたら事業化というか、ビジネス化とかというものに、本当に具体的にになっていくのかなという気がします。

○菊川倫太郎委員 ちょっといいですか。

私、今、先生がおっしゃったこととちょっと関わってくるんですけど、ここにあるまちづくりファーストステップセミナーというのが、最後のところには事業計画を作成し実践することになると、結局起業してみたいなことに、最後は持っていきたいんだろうなと思うんですけど、何となくですけど、そうすると、本当にそれがまちづくりなのか、もう一つのキーワード、仕事づくりもあって、それは仕事づくりというふうにやった方がストレートに

伝わるような気もするし、まち・ひと・しごととは、非常にキーワードとして聞こえがいいですけど、まちづくりと書いてあって、この地域を知るとか、自分たちの住むまちをよくしたいとか、学びたいとかという、それこそ市が考えることだったり、政治家が考える、いわゆる市の運営というか、何かそんな感じで、何かちょっと起業と違ってる感じがするんですけど、ここはただ、仕事づくりのセミナーという感じには何となくつながる感じもするんですけど、ちょっとそのあたりが。そもそもまちづくりという言葉がちょっと、もやっとしていると言えどもやっとしている感じがします。

ついでにもう一個、いいですか。

この表、左上の部分に愛知県に、これもちょっと3つのキーワードで、やま・ひと・しごとと書いてあって、今ここの「まち・ひと・しごと」と「まち」と「やま」が違っているものが存在しているんですけど、ここで言う愛知県のこの広域のやま・ひと・しごとのやまというのは、どんなものを指しているんですか。不勉強なので。

○西田主任 これは、奥三河で事業としては、起業家を育てるという事業になっていて、まち・ひと・しごとの奥三河版で、「やま」という形の事業になっているんですが。

○松本吉生委員 地域をやまは指しているんですか。

○西田主任 はい。

○菊川倫太郎委員 地域を指してる。山合いのまちまちみたいな意味ですか。

○西田主任 山間地域で。

○松本吉生委員 ということですか。

○菊川倫太郎委員 そこだと、ひととしごとは同じようなコンセプトですか。

○西田主任 はい。

○鈴木誠協議会長 今、菊川さんのこちらの地域の人材のチャート図の方も含めて確認してくださったんですけども、どんな点でもい

いですから御意見があればぜひ出していただきたいと思います。

○佐藤真琴委員 今の時点で、まだちゃんと決めてないかもしれないですけど、これは市民活動を推進するのか、事業化を推進するのか、どちらですか。

○西田主任 まちづくりファーストステップセミナーについては、市民活動を推進します。

○佐藤真琴委員 市民活動だけど、お金が入れば持続可能になる、そんな自立的な市民活動。

○西田主任 はい。

その市民活動が、もしかしたらうまく回る事業があるかもしれないので、そこを伴走支援者がうまくアドバイスをすることで、ビジネスにつながるような支援ができたらと思っています。

○佐藤真琴委員 これ、どこかの地域で先行事例とかがあるんですか。

○西田主任 はい。雲南市。

○佐藤真琴委員 ああ、雲南か。

○西田主任 の2種類、幸運南塾の2種類あって、地域づくりのプランと起業家プランとあるんですが、それを地域づくりの方のプランをそのまま参考にさせていただきました。

○佐藤真琴委員 似たところだと、静岡市がやっている人材育成塾がすごく近いなと思って、あそこも雲南にちょっと近いプランなので、市長さんが学長になって、人材育成塾をやっているんです。市民活動を一応推進するというたてつけですけど、そこから事業化されるものを拾って行って、実際に最近事業化されたものだと、中山間地域の空き家対策、そのニーズ調査を普通の人はやらないようなニーズ調査を本気でやって、山に入って、皆さんほぼボランティアで、山の人と仲よくなって、リレーションを作ってデータを集めて、そうすると山の人が、初めて、じゃあうちの建物を使っていいよという話になって、移住者のための家などが出来ていくという仕

組みになっていて、そこら辺まで来ると、ちょっと企業さんは乗ってきてくださるところも、実際出てくるということも出来るので、息の長い話ではあるんですけど、本気の人が増えれば、やはり地域の課題って、少しずつ解決されていって、うまくサイクルに乗ってくると、事業者さんも乗り方が見えてくるので、乗ってきてくださる。それは、放っておいても自然発生的には出ないので、根のところからも中山間地域だったら、空き家対策は問題ですよねと言っているときから、そうだよねと言って、共感しながら、ちゃんとそれをどういうたてつけで見っていくのか、じゃあ事業化するにはどうしたらいいのかということ結構初期の段階から突っ込みながら、3年とかかけてやっていくと成長していくので、すごくいい取り組みだなと、先行事例もあるので、私は思います。

ただ、成功率はそんなに高くなくて、3年関ってますけど、毎年だいたい5プランぐらいチームでやって、突き抜けるのは1.5とか2ぐらいで3ぐらいは何となく市民活動グループなんですよ。

でも、その事業化できる確率からいくと20%、30%ぐらいですけども、それでもよしとすれば、芽を拾って育てるのは、すごく可能性があるんじゃないのかなと事例から考えます。

○鈴木誠協議会長 これはファーストステップと書いてあるんですよ。静岡の場合でも雲南でもそう、あれはセカンドステップ、サードステップとか、そういう段階を経て何を身につけてもらうか、最初はその地域を知って、そして地域がどういう状況なのかを把握してもらって、何をしたい方がいいのか、何をしたいのかという問題意識を、動機づけをやるのが、多分最初の年だと思うんです。その中から生き残った人たちとか、次に行きたい人たちを育てながら、うまくいった人たちに、セカンド、サードといくでしょうけど

も、静岡の場合はそういうふうに段階があるんですか。

○佐藤真琴委員 一応1年目に調査統計から市長への提言という形で、どんなに稚拙でもいいから、とにかくまとめ上げて人に伝えられるような提言にまで落とし込むというのをやるのがファーストステップです。やはり調べて終わって自己満足ではしょうがないので、これはどんな困りごとで誰が困っていて、こういう解決方法がある。私たちは仮説としてあるので、市役所も一緒にやってくださいとか、こういう事業者さんを探してきてくださいという提言を市長のところにさせて、それがファーストステップ。

そのこのジョブが終わった後に、ネクストという段階をつくってやって、ネクストもちょっと市のお金が入っているのですが、生き残ったところがちゃんと同じように、また半年プログラムを組めるようになっていきます。

○鈴木誠協議会長 それにエントリーしてくるような人は、市内の人でしょうか。

○佐藤真琴委員 市内です。行政職員が1割ぐらい入っています。あとは会社員の人が多くて、生涯学習課がやっているんです。生涯学習の一環で、生涯学習からちょっと踏み込んだ実践的生涯学習という位置づけでやっています。

人口も70万人いて、大学があつてとか、環境は違うんですけど、ある程度アーリーアダプターぐらいの人はどこにも絶対いるので、イノベーターにはならないけれど、アーリーアダプターとアーリーマジョリティぐらいの、最初は3割ぐらいの方を拾うように公募したりしています。

意外と大手企業の、静岡だと静岡新聞社とか、静岡銀行さんとか、静鉄さんとかが行けと言って行かせる人事教育みたいな感じで、お金をちょっと取ってます。数万円ですけどね。1万円と言ってたかな、それぐらいのお金を取ってます。

○鈴木会長 ここは結論を出す場じゃないですけども、これの進め方とか、着眼点とか、工夫すべきところを、いろいろと事務局も今日は提案を与えていただいておりますので十分だと思いますし、次に向けて、またさらに議論していきます。

ひとまずこれについてはどうでしょう。

○天野勇治委員 もう一つ言っていていいですか。

○鈴木会長 ああどうぞどうぞ、天野さん。

○天野勇治委員 ちょっと2回ほど出てないから、これを作った過程を僕もよく知らなくてちょっと質問させていただくんですけど、例えば、今ずっとお話を聞いていて、こういうやっていくことは、今までも同じようなことを企画してやってたんだよね、多分。名前は違うとか、この前も何か昔もそんな話がちょっと出たと思うんですけど、新規のそういう人とか、そこの大きな違いは、補助金をつけることなのかな。極端に言うと。

今まではあっせんはします。だけど、今回の産業振興部でやるのは、お金をつけるからどうですかという形と思えばいいですかね。聞き方が悪いんですけど。

○西田主任 これまでは、補助金をとるまでの企画、事業計画は自分たちで作って、それを市側で見て、それでオーケーか、NGかということで補助金を出していたんですが、これを見る市側の方が、そういった企画を見る力がなく、結局その事業が単年で終わってしまったり、補助金がないと続かないとか、そういったことばかりだったので、今回は、この協議会で、そうじゃなく専門家がしっかりと事業計画を見ることで、そういった補助金の活用をもっとうまくできるんじゃないかということで、こういった事業提案をさせていただいています。

○天野勇治委員 例えば、今そういう今までも同じ形のものを今までやってたときに、かなりの方がそういう窓口に来てたのかなというのはどうですかね。知れてる。

○加藤商工政策課長 知れてます。

○天野勇治委員 知れてる。

○加藤商工政策課長 はい。

○天野勇治委員 じゃあ、これを例えば、今のこういう若者が、まちづくりファーストステップセミナーとかやることで、それだけのお金がなくても魅力があるものに、ぱっと見たときに、何かちょっと弱いような気がしちゃって、僕。

○加藤商工政策課長 そうですね。

○天野勇治委員 お金がついてるだけしか違わないというなら、例えばお金をもっとどんどん全面的に出して、これだけの支援をしますよとか、そのぐらいのものにした方が。

○加藤商工政策課長 支援、お金、何かを始めるときの支援をする気は全くないので。

○天野勇治委員 え。

○加藤商工政策課長 天野さんが何かを始めると言ったときに、お金をどんと出す気は全くないので。

○天野勇治委員 うん。

○加藤商工政策課長 何かに気づきたい人たちに、気づいてもらう段階の話です、今のは。

その後にはほかの金融機関さんがいたり、商工会さんがいたり、いろんな方がいるので、そういう方たちで連携して、その事業化を、何かやろうとする人を育てていきたいねという話です。

○天野勇治委員 それで、こう言うては失礼かもしれないですけど、今までのそういう、やっていたものと、これならいけるぞというところはどこですか、例えば。

○加藤商工政策課長 これならいけるぞというところは、これからつくりますし。

○天野勇治委員 いや、例えば。

○加藤商工政策課長 一番言えるのは、来なかったら、今までだと無理して10人とか集めて何とかするんですけど、そういうことはしません。魅力がなかったということで、もうすぐに切りかえて。

○天野勇治委員 ああ、もう次の提案に。

○加藤商工政策課長 違うものにします。

○天野勇治委員 ああ、なるほど。

○西田主任 はい。今までと違うところは、これまでの補助金とかの事業は、それぞれの事業者がそれぞれでしている形だったんですが、こういった事業で、一度皆さんで集めて、集まって意見をもんで、事業提案してと言うと、そこでネットワークが出来るんです。そういったところが今までと違うところ、事業者同士がつながることで、新たな事業が出来たり、事業の深まりが出来たり、そういった効果が生まれるんじゃないかなと思いますので、その部分が今までとは違います。

○天野勇治委員 あれですね、逆に、今までに出てきてない方をいかに出すかが一つ、大きなところですよ、じゃあ。

○加藤商工政策課長 そこです。

○天野勇治委員 そこですよ。

○加藤商工政策課長 はい。それで。

○天野勇治委員 そこが一番の違いですね、じゃあ。

○加藤商工政策課長 何かやっていこうとするのに、痛みも伴わないと、何もやらないので、補助金なんか簡単には出しません。

○河合恵元委員 明日まちとの違いがわからない。明日まちはやめるの。

○加藤商工政策課長 あれは。

○河合恵元委員 ただ、違うのでつくっている。

○加藤商工政策課長 あれは、本当に3人以上のグループ、3人以上のいろんな方が集まって組織をつくれれば、何かやりたいと言ったら補助金を出しますよ。一回出して。

○河合恵元委員 それなら見直せば。

○加藤商工政策課長 そういうことですよね。多分。

○河合恵元委員 カラーが違うから違うと。

○加藤商工政策課長 だんだん変わっていくと思いますけど。

○鈴木誠協議会長 明日まちは、当初の考え方とは別として、実態としては地縁の組織だと思うんですね。

○加藤商工政策課長 そうです。

○鈴木誠協議会長 地縁、だから、御近所の人たちが疎遠になりがちなところを一回みんなと一緒に暮らしている地域なり近隣というものを見定めて、危険な箇所がないか、あるいはどうしたらいいのかを考え合っ、そして、例えば伝統芸能が枯渇しようとしているので、もう一回復活させて、みんなで芸能を復活して、それをみんなで共有していこうというのが、さまざまなそういう地縁がベースになって夢を描いていく。要するにコミュニティをつくっていこうということですよ。地域社会というよりもコミュニケーションを活発にして、一緒につくっていく人間関係を蘇生させようというのが、明日まちの今の姿に近いのかなという印象を持っています。

地域自治区の実際の地域活動交付金なんかも、それに非常に近いものになっていたけども、多分今回の場合は、それをそういう地縁という中での人間関係を越えたものをもっと描いていったら、いくことが大事じゃないかと考えていると思うんです。

です、地縁の中で出るか出ないか、関る関らないかは、結構うっとうしい話でもあるので、そういうところを乗り越えて、自分をもっと新城を知りたいとか、この間の企業展の延長線で、こんな会社があるんだしたら他にもあるんじゃないかと、あの経営者の人はどういうふう考えていたのか、そんなような地域、ここで言う地域調査のやり方も考えなきゃいけないけども、地域で活躍している、例えば起業家、あるいは経営者とは一体どんな人たちだろうという、仮にそれがテーマだとすると、そういうことを巡ってまずは調査をして、そしてそこから、じゃあ自分だったらこんな仕事を興してみたいとか、こんな会社を興してみたいというそういうビ

ジネスプランを、次の段階でプランの完成、そこへ持っていく。

そしてその後は、今度は、じゃあ具体的にどう具現化していけるのかという夢の実現に向けての支援作業になっていく。

だから、そこはもう地縁ということを超えて、まち全体をどうしていきたいかという大きな夢の中で、具体的にその中で取り組めるプロジェクトを立てていくということだと思います。

僕ね、このところで、さっき痛みを伴うという話をしたんだけど、多分この前半の部分は、余り痛みを伴わなくていいなと思うんですよ。

でも、プラン完成後、いよいよ事業計画作成となったときに、これ、伴走支援者が入るでしょう。伴走支援者は、自分の事業を具現化するために必要な伴走者であって、他の提案者と同じということは必ずしもあり得ないわけです。

だから、自分の事業を具現化するのに必要な伴走者を徹底して選んできて連れてきて欲しいというところにおいては、参加者、ここで完成後に入っていく事業計画に入っていく人は、費用負担を伴うことがあってもいいんじゃないかなと思いますけどね。

僕、前に金沢で奥能登教室をやったことがあるんですよ。1年間やったんですけどね。そのときに会費が1人3万円とか、5万円だったかな。それは、結局、能登の奥能登地域で資源を見出しながら、それを事業化していく、温泉を発掘してみるとか、温泉の花を、これを通常の湯の花じゃなくて、もっと食材と結びつけていこうとか、そんな夢を持っている人たちが、実際にできるのか、試験場に例えば頼んでみて、試験をやってもら。それから、そういう今度はインキュベーション、インキュベーターを今度は国から派遣してもら。いろんなメニューをこしらえておかねばならないですね。

そういうところでお金が必要なので、そのところを提案者自身が負担をするという、痛みを伴うことになってくるんじゃないかなと思います。多分それがないと、やはり行政が補助金を出してくれるから、やれる範囲でやりゃあいいやという結果で終わってしまう。そうすると、佐藤さんがさっきおっしゃったように、でもそういう中から、市長に提案して何が何でもやってみようと、セカンドステップのプログラムを用意すれば、そこから今度は金を伴いますよということであれば、命をかけてやろうという人が生まれてくるかもしれない。

だから、このあたり、考え方は多分いいと思うけれども、専門の人に伴走支援のところあたりから、僕は本格的な費用負担を伴うビジネスプランの作成の支援が必要になってくるんじゃないかなと思います。

もうここにいる人たち、協力いただける方たち、相当な報酬を払って、真剣に協力していただくということが。

○加藤商工政策課長 今、河合さんがおっしゃったみたいに、明日まちだとか、皆さんよく知らないような、似たような地域活動交付金だとか、自治区予算だ何だかんだといろいろあるものですから、それも今まではそれぞれがやっていたので、今度はうちの方で、先ほどから先生が言っているように、横ぐしを刺して、分かり易くもして、ということをしていきますし、一度皆さんにも今どんなようなことが、今つくっている産業自治基本計画の素案に関するようなことで、補助金とか交付金とかいろんなものがあるので、分かり易く作って、皆さんにお見せするようにします。よろしくをお願いします。

○河合恵元委員 ぼやけるのは嫌ですわ。

○加藤商工政策課長 そうです、あっちもこっちもとなっちゃうのがお役所なので。

○河合恵元委員 統一してほしい。

○加藤商工政策課長 はい。分かりました。

○松本吉生委員 例えば、新しく採用する、来年4月から入ってくる人とか、いろんな企業に新入社員が入ってくると思うけど、そういう新城に新しく来た人、もともといる人かもしれないですけども、市の職員も、新人の子も合わせて、この1年間をやっていくみたいな、やってみたらいいんじゃないかなと思いますけども。自分たちの企業からも人を出していれば、最後にその子たち、市側もそうですけども、何か事業計画が立ってくれば、もしかしたら、参加している事業者の方で、いや市の補助金と合わせてうちも補助して、うち主体でちょっとやってみようという人が出てくるかもしれないし、市の職員の人もまだ1年目ですから、とはいうものの地域に対する思いは強いと思うので、さっき済みません、僕は一気通貫できる人で学生と言いましたけど、もしかしたら、来年入ってくるこの新人の中で事業者に入ってくる新人と合わせて、市と一緒にやったら何かちょっとおもしろいかなと思いますね。例えば、うちに総合職の大卒4年の人が入ってくれば、ぜひ出したいと思うんですけど、ちょっとそういう子もいないのであれですけど。各企業にね、新入社員さんということで、まだ学生の大学5年生、高校4年生としてのやわらかい頭を持ちながら、市のために、これから役立ちたいと多分燃えていると思うんですよ。入庁したばかり、入社したばかりで、そういう熱い子たちをここに持ってきたりなんか、最終的に何かいい形ができて、各事業者なんかも人を出している訳ですから、やはりじゃあ、うちでというようなことに、もしかしたらつながって。

さっき、済みません。ちょっと言ってることがまた逆になったら恐縮ですが、大学生にさせるとか、高校生にさせるとか、若者議会にさせるとかもいいですけど、ちょっとそういう新入社員とかで、こんな勉強出来たりする、すごいいいなあというふうに。

○鈴木誠協議会長 そうすると、今皆さんが話したので、僕は大きく2つあるなと思ったのは、一般的な経営革新とか、それから起業創業という話じゃないので、やはりまちの今を憂い、そしてまちを良くしていくということがあるので、動機として。そうすると、地域を見詰めて、経営を革新する。今松本さんがおっしゃった新入社員であるとか、それから新入公務員であるとかということをもっと自治体による地域経営をもっとしがらみを除いて、何が必要なかをやわらかい頭で考えていく、そういうビジネスプランをつくってもらうとかね。これはまさに経営革新の一つですよ。だから、地域を見詰めて経営革新をしていく。自治体の法律に基づいて、何をやらなきゃいけないかじゃなくて、もっと地域のニーズが何なのかを見て、そして自分の今のこれから勤めていく自治体を、行政がどういうサービスをつくっていったらいいのか、そういう方向に変えていく。

それから、企業でも新入社員の人たちに、三菱東京UFJで働くとは何ぞやということでは会社は教えてくれるけれども、新城で暮らしながら、そしてここで、金融機関としてやることは何なのかという松本さんが日ごろから追求していることを、これを学ぶ。これはやはり、地域を見詰めて経営を革新していくことは一つあると思うんですね。新入ではあるけれども、そここのところは地域を見詰めて経営を革新していく。自治体においても、民間においても。

もう一つは、やはり既存の経営をどう変えるか、あるいはつくるかじゃなくて、新しく何をやるかという挑戦を始めていけるようにする。地域を見つめて、今度は起業創業をやるということですね。石田さんなんかは、そういういわばアグリベンチャーの典型なのかもしれないけれども、こういう人を一人でも二人でも新城の特性を踏まえて育てていく、つくっていくことも大事じゃないですかね。

地域を見詰めて経営革新、地域を見詰めて起業創業、事業の継承、承継か。

○松本吉生委員 仮にもし何ですか、事業計画が出来て、そこが事業にならないとかしても、何かそういうふうにロジカルに学んだことで、地域についてロジカルに学んだことで、多分それぞれの会社に2年目以降のところで、もしかしたら何かその会社の中から活かしてくれるかもしれないということになるんじゃないかと。そうすると、まちづくりに対する波及効果ということで言うと、もしかしたら、何かその新入社員みたいなとうまくやることで、何か波及効果が大きくなるんじゃないかなと。会社へ戻って、社長、こうですよ。いや、河合社長さんみたいな社長ばかりだといいですけど、会社へ戻って、いやいや、こんな勉強をしてきたんだなど。そうそう、最後に会社の社長さんとかみんな来てもらって発表とかしたら、それはやはり。

○鈴木誠協議会長 そうですね、その最後のところがいいですね、それ。そういう意味で。

○松本吉生委員 例えば、新入社員のところに。もしかしたら、そこに高校生とかが入ってきていいかもしれないし、大学生が入ってくるかもしれないですけど。新入社員って、一番燃えてるときだと思うんですよ。だから、その燃えてる気持ちを地域にも、会社だけでなく、地域にも振り向けるようにしたら、もしかしたら。

○鈴木誠協議会長 最後の提案のところのアウトプットを出す対象はいいね。新城の経営者とか、事業をやってみようという方たち、とてもおもしろいと思う。化学反応が起きるかもしれない。

○河合恵元委員 余り変わってない。価格が幾らかとか。

○佐藤真琴委員 新入社員とか若いと、なかなかそのR&Dと言われる、調べてみて、新しいことを作り出すって、チャンスがないじゃないですか。それが出来るころには、中

堅になって、ちょっと頭を使っちゃうので、小っちゃいことしか出来なくなりますよね。だから若くて、無茶ができるうちに、そういう会社の中での無茶はなかなか今は難しくなっているの、失敗できなくなっていると思うんですよ。その失敗をして良い訳じゃないけれど、恐れずにやれる環境で、一通り企画立案から調査から、立ち上げてみるまで経験できることになれば、それはすごく価値があることじゃないかなと思いますけどね。未来、将来、内部課題に全員が向かっていくときに、内部課題が見えてても、みんな言ったり、やったりしないから、会社が潰れるわけですから、だんだんだんだんと衰退していくわけですから。内部課題に未来につき向かえるような強さみたいなものが、若いうちに培われるといいですよ。

○鈴木誠協議会長 僕ね、僕の話ですけど、うちの親父が昔、松本さんと同じ三菱東京UFJ、昔の東海銀行だったんです。そのときに大学へ行くときに、学費を出してくれと言ったら、嫌だと言われて。そのかわりに、学費と入学金が一体どれぐらいのものというか、量なのか、一回見せてやると。それで本物の札じゃなくて、紙ベタにして、実際に積まれたんですよ。こんなに無駄なことを俺はしてたのかと思った瞬間に、非常に責任を感じました。というよりも具体的なイメージが湧いてきました。だから、ここで事業と金融機関なんかに関してくるときには、実際のお金を見せてもらうのもいいかもしれない。例えば君が提案しているものは、これは実は、最初の立ち上げで1,000万円、それから運転資金で2,000万円必要としている。そうすると3,000万ってどのぐらいになるんだ。見た瞬間に、ぐっと人間が変わっていくと思うんですよ。それがどう変わるか分からない。そういうようなリアリティーをこの中に、いろんな場面をつくっていく。これはやはり皆さん、お見えになる方たちだからこ

そ、いろいろとできることでもあるので。リアリティーが必要ですよね。

○佐藤真琴委員 そうですね。

○鈴木誠協議会長 だからこそ、その最後のアウトプットのところで、実際の現場で持っている人たちの心に響くものが提案できる可能性は大にある。何でもかんでも補助金で用意周到でやって、出来たものは、やはりあまりよくない。それはいい。

○佐藤真琴委員 補助金を取りに行く労力で稼いだほうがいいよと私はいつも言うんですけど、市民活動をやっている子に。

○鈴木誠協議会長 いいことです。

○佐藤真琴委員 良いですよ。100万円もらうためにあんなに書類を書くんだったら、100万円稼ぎに行こうぜという、まさにそういうことだと思うんですね。でもスタートアップって、やはりお金がかかるし、なので、3年後には自立することを前提として、最初の立ち上げのときの金額的なところを補助金がサポートしたら、すごくいいですけど、これ、やはり自立することを前提として、ぜひ仕組みを育てていただくと、本当に自立していくところが全部は無理かもしれないですけど、何割かはあるんじゃないかなあと思いますね。

○鈴木誠協議会長 皆さん、今、新城版というか、結構おもしろそうなものが出来そうな話にもなってきたのですが、ここで詰め切っちゃうと多分、事務局が動けなくなっちゃうので、ひとまずアイデアをいただいたことにして、ここからどううまくつくり上げるか。ちょっと次回に向けて課題を出していただこうと思いますが、よろしいでしょうか。

○佐藤真琴委員 お願いいたします。

○鈴木誠協議会長 それで、あと1点。

○加藤商工政策課長 あと皆さん、今見ている資料の8ページですが、第1節のところに囲ってあるところが一つ、「人をつくり、産業を生み出し、持続可能な地域経

済の発展」なんてというのは、これが今キャッチフレーズになっているんですが、一度、御検討くださいということで、へえという感じで見えておいていただきたいことと、この計画、もう今までのお役所仕事の感覚でつくってあるので、文面自体が、これは先ほど内藤から話があって、パブリックコメントは一応市民の方に見ていただいて、意見がありませんでしたと通しちゃうのが行政ですね。こんなもの見たって分からんじゃないかと、後から聞くと皆さん、そう言われるので。これ、書きぶりを見ていただいて、もっと分かりやすくしろだとか、12ページ、13ページは特にそうですが、これから商・工・農・林・観の部分も随時、随時というか、できましたら皆さんにお見せするので、もっと市民が見て分かり易いように、市民と事業者と市が連携してやるものなのではないかと、この計画を作るに当たって、一番気にしているところなので、一度御検討ください。もう今は、完全にお役所が作る字づらになっております。以上でございます。

○河合恵元委員 どこから持ってきたの。この文章、どこから持ってきたの。

○加藤商工政策課長 いや、頭の中から引っ張り出してきました。

○佐藤真琴委員 コピペさんじゃないのですけど。

○加藤商工政策課長 コピペじゃないですけど似たようにはなってきました、どうしても。

ここにいらっしゃる皆さんですと、もう1年近く一緒に関わっていて、言葉だとかも伴走支援だとか、何やらかんやらと聞いているので、ふむふむとお分かりになるかと思うんですけども、初めて見た方が、なるほどねと分かってもらうものが本当はいいですけども。ちょっと一度、書きぶりも先ほどのキャッチフレーズのところとあわせて見ておいてください。

○鈴木誠協議会長 今日、時間の関係でこれ、とても全部というわけにはいかないですけども、

少なくとも市民の皆さんに目指す市の姿、特に産業面からどんな新城を目指すべきかという、そういう呼びかけのキャッチフレーズは、これではまずいだろうとは思いますが、もっと何か、皆さんの言葉で変わるようなものにしてないのがまずは、今日は聞きたい部分じゃないですかね。

産業振興、方向、新城が目指す市の姿を。新城が目指す姿、それを産業面から描くとするとどんな言葉が、表現が合うだろうというようなことですかね。どうでしょう。

○松本吉生委員 公募みたいなものはしてはいけないのですか。決めた後、答申はできないんですか。で、公募することで、こういったことを今考えて、やろうとしているんだよと知ってもらおう。やっても、手が誰も挙がってこないみたいな、そんなことはあるんですか。

○加藤商工政策課長 挙がってこない方が多いと思います。

何を言ってるか、まず分かってもらわないと、というふうになるんですね。で、今言われたのは、後から取り入れることは可能です。一度、知ってもらってから、つくり直すようになるんですけどね。

○河合恵元委員 何か、例えば林業の振興、多分、これは全国一律これだと。

○加藤商工政策課長 そうです。それが今までの全国一律、それですけど。

○河合恵元委員 何かやはり、新城としてという何か。

○加藤商工政策課長 それを今回、横ぐしを刺して、一つの方向に向かうような形のもの。

○河合恵元委員 国が進める、皆伐を進めろと書いてあるね。

○加藤商工政策課長 今は、その振興のところですよ、そうです、それは森林課の人間が作っているの、これが今やっていく振興ですけど、そこじゃない部分を入れていきま

すので、この中に。

そのあとの材をどうするかという話なのですよね、仮設住宅をつくるようになっていう。

○河合恵元委員 もう一個、何かプランがあるみたい。

○加藤商工政策課長 また、今度お邪魔します。

○鈴木誠協議会長 これは各部局で、前に一回聞いたことがあったような気がするんだけど、各部局が法律に基づいて、例えばこの前の方を見ると、何とかやら基本計画とありますよね。その法律に基づいて、市がやはり着実に行政機関としてやらないといかんことをここには書いてあるわけですので、これ自体は否定できないだろうし、これを否定したら、各課、要らないよという話になっちゃうので、法律に基づくものですから、これは絶対に要るものだと思うんですけど。ただ、新城で産業自治、地域産業総合振興条例を作って、産業自治基本計画を作って、その中に入れ込んでいく内容と方向ではないとは思ってますよね。そうすると何かと言うと、さっきの12ページのところで、さっきのもう一つの紙で、地域を知り、そして地域をつくっていく。例えば、地域の様子や課題を知って、そして地域をつくっていくために、例えば、さっき河合さんがおっしゃった林業は、今どんなことをした方がいいのかとか、商業は、今、空き店舗がものすごく多くなってきているけれども、例えばそのところを埋め込んでいくようなプロジェクトをやった方がいいのか、多分、そういう方向性を大まかにまずは描くことじゃないかなと、細かいことは後で入れた方がいい。分かりやすい表現でまとめるんじゃないかと、この12ページ、「まちをつくる、ひとをつくる、しごとをつくる」、しかも地域の実情を踏まえて、まちをよくしていく。それから地域をよくしていく人をつくる、そして地域で必要な仕事をつくるという観点で、この商業だの工業だのというところ

ろの中の重要なところをやはり拾い集めて描くというところで、まずは行くことが大事かなと、これを見てて思ったんですけどね。皆さんはどうでしょうか。

今日のところは、どういうアプローチが必要かということだけでもいいと思いますけどね。

石田さんはどうですか。

○石田靖典委員 まあ、僕の仕事は、農業の振興のところだけ読ませていただいたんですけど、当たり前のことが書かれているので、今さらだなとちょっと感じる場所ですね。農業にするか、下の方は何か、こういう感じになったらいいですけど、上の方なんて本当に今さら言われることもない、これを目指すのは当たり前だろうということが書かれているので。

○加藤商工政策課長 分かりました。分かりましたというより、それは先ほど、先生が言われているように、何ともそういう書きぶりになってしまうところで。

○鈴木誠協議会長 加藤さん、何か発想はありませんか。観光の。

○加藤商工政策課長 これも、当たりさわらないようなことが書いてあります。

○加藤弘依委員 観光に関しては、来年、大河ドラマの井伊直虎で、湯谷温泉も鳳来寺がゆかりの場所になりますので、浜松となるべくタッグを組んで、奥浜名湖から湯谷温泉に来ていただくという形では、頑張っているところではありますが、やはり観光に関しても、PRの仕方がやはりとても下手な、下手というか、ところがあって、それをどういうふうに、新城市を知っていただくにはどういうPRをしたらいいかを、いろんな面で勉強したいところではあるんですけども。

○鈴木誠協議会長 キャッチフレーズのところのあたりは佐藤さん、何かうまい言葉はないですか。甘い言葉とか。

○佐藤真琴委員 これを見て、誰も何も、

うんとしか言わないから。

○加藤弘依委員 何かもうちょっとビジョナリーだといいですよね。イメージが湧くような。

○佐藤真琴委員 これって何なのというのが、ひとをつくり、産業を生み出すって、一つづつが分からないので、何か、こううまいこと言ってくれる方がいるといいですよね。いないのですか、コピーライターとか。いないですか。

○加藤商工政策課長 いないです、今のところは。

○鈴木誠協議会長 だからこれを公募したらどうだろうという話だけど、これ、いつを目指すんですしたか。このビジョン、計画したのは、いつを目指す、この言葉はいつを目指している言葉でしょうね。あした、それとも1年後、それとも10年後。

○加藤商工政策課長 この計画自体は、3年ですけど。

○鈴木誠協議会長 3年。

○佐藤真琴委員 でもこれ、何かいいんじゃないですか、このままでも。簡単にしちゃうと、みんな分かるけど、結局分からないとなっちゃうんですよね。

でも、その下にすごく分かりやすい言葉で、100文字ぐらいのこれはこういうことですよというものがついてた方が、より親切な気がします。20文字で書けることはちょっと少ないですけど、100文字とか160文字だったら、そう書けるので。

○鈴木誠協議会長 じゃあ、これはこれでよしとする。

○佐藤真琴委員 その方が何かいい気がするんですけど。

○鈴木誠協議会長 そしたらここは、今日結論を出すところじゃないので、皆さんに一回お読みいただいて、横ぐしを刺すという話もあったけども、刺せてないので、皆さんなりに横ぐしを刺したら商業、工業等々の中で、

重要なキーワードとか、欠けてるキーワードがあるぞという御指摘がもしあれば、ぜひ出していただくところで、まずは委員の皆さんにお願いをということで伝えておきましょうか。

○加藤商工政策課長 はい、よろしくお願ひします。

○鈴木誠協議会長 キャッチフレーズも皆さん、考えておいてください。

○石田靖典委員 いや、うちとか養鶏、結構大々的にやっているところもあるんですけど、どこにも入ってないので、それは何でかなと思った。あれも一応、結構重要な産業だとは思うんですけども。

○加藤商工政策課長 振興のところ。

○石田靖典委員 振興、まあ。

○加藤商工政策課長 分かりました。ちょっと確認しておきます。

○石田靖典委員 本当に、牛とか鶏、今養鶏ですか、養鶏なんて本当にもつくとかでも、朝御飯、モーニングでたまごかけ御飯の食べ放題を出しているぐらい、今結構してると思うので、何で入れてないのかなあと思っただけですけど。

○鈴木誠協議会長 それと、ちょっとこれ、まちをつくる、ひとをつくる、しごとをつくる、こういうところで、既存の産業を産業振興に入れ込んでいくと、例えば、まちをつくる、これは河合さんのところの建設関係とか、まちをつくるというのは、いわばインフラであるとか、それから家であるとか、その衣食住の住に関するものですね。

ひとをつくるというのは、食に関りますよね。ひとをつくる、一番根本の、やっぱり食にあると思いますけどね。水であるとか、空気であるとかということもあると思うんです。そのしごとをつくる、これが何になるでしょうか、例えば衣食、食の場合もある。衣の部分でもあるわけで、そのまとうとか、いろんなことで、まちに装いをもたらすという観光

ということになるし、さまざまですかね。

ちょっとこういう、まち・ひと・しごとという枠組みの中で、つくるべき産業というのをもっとまぜこぜにするということが大事じゃないかと、これを見て思ったんですけどね。僕だったらそういうこともやった方がいいかなと思います。従来の分野別でやったって、余り意味がないと思いますけど。

まちをつくって、ひとをつくって、しごとをつくる、それだけでは分らないですね。

それでは皆さん、キャッチフレーズと同時に、一度この産業振興の方向性というところですね、もう一度お読みいただいて、考えていただきたいと思います。

それでは、今日皆さんにお考えいただくところと、それから、皆さんに今後考えていただきたいことを2点、今日出しあいましたので、事務局、何かこれに加えてありますか。議題として。

○加藤商工政策課長 特に、議題は以上です。

○鈴木誠協議会長 次回が先ほどのスケジュールで見ますと、1月にあるんですね、ごろですね。

○加藤商工政策課長 ごろを予定したいと思うので、また調整させていただきます。

○鈴木誠協議会長 基本計画案が、今度12月9日に一回、今の皆さんの意見を踏まえて、事務局がたたき台を皆さんに送ってくるそうですので、それをまず、見ていただくということですね。

○加藤商工政策課長 はい、都合がつく方のところへは伺って、少しお話しさせていただきたいと思いますので。

○鈴木誠協議会長 それで皆さんに今日、お考えをお願いしますと言ったことを踏まえて、今度は皆さんから22日に向けて意見を、22日が一つの期限となりますので、皆さんの方からまた提案を出し、先ほどのキャッチフレーズ、それから振興の方向性、それから今日、具体的にファーストステップのつくり方、

セミナーのつくり方等々ありましたので、こういったことを踏まえて、中身についていろいろ準備していただきたい。というのが22日ですね。

○加藤商工政策課長 はい。

○鈴木誠協議会長 そしてまたそれを1月には、皆さんに基本計画案を出すそうなので、それをご覧になっていただいて、意見を寄せていただいて、そしてそれを全部まとめて、1月中旬に最終の基本計画をまずはつくと。その中には、来年から実際に取り組んでいく実施計画に関る、今日のファーストステップセミナーに関りの、こういう具体的な事業を出されてますね。

○加藤商工政策課長 はい。

○鈴木誠協議会長 ということでですので御協力お願いします。

皆さんから、何かあるでしょうか。

河合さん、どうですか。

○河合恵元委員 いや、僕はないです。

○鈴木誠協議会長 いいですか。

松本さん、いかがですか。

○松本吉生委員 大丈夫です。

○鈴木誠協議会長 菊川さん、いかがですか。

○菊川倫太郎委員 はい。

○鈴木誠協議会長 天野さん。

○天野勇治委員 大丈夫。

○鈴木誠協議会長 石田さんは。

○石田靖典委員 さっき言ったので。

○鈴木誠協議会長 よろしいですか。

それでは、時間も参りましたので、今日はこれまでにしておきます。

では事務局、お願いします。

○白井商工政策副課長 長時間にわたり、どうもありがとうございました。いろいろ宿題が出てしましまして御負担になってしまうかと思っておりますけれども、皆さんの御意見、いろいろいただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

本日は、これで第9回の新城市産業自治振

興協議会を閉じたいと思います。どうもありがとうございました。